

膠原病通信 第6号

2022年11月 文責：吉田 直史



多発性筋炎・皮膚筋炎について

皮膚筋炎・多発性筋炎とは膠原病の1つで筋肉や皮膚、肺を中心に全身に炎症が生じる自己免疫疾患です。特徴的な皮膚症状がみられる場合を皮膚筋炎、皮膚症状を伴わない場合を多発性筋炎と呼びます。

多発性筋炎・皮膚筋炎の原因は？

遺伝的要因と環境要因の両方が関係していると言われてはいますが、まだ原因は特定できていません。

症状・検査

体に近い筋の筋力低下、筋肉痛、特徴的な皮疹が生じます。具体的には大腿部や臀部、上腕、肩などの筋肉が疲れやすい、力が入りにくい、痛いといった症状が現れます。症状が緩やかな場合もあり「年のせい」だと考えられることもあります。嚥下を行うのに必要な筋肉が筋力低下を起こすと食事のどに引っかかりやすくなり、誤嚥することもあります。

皮疹は様々なパターンがありますが、日光が当たりやすい部分が赤くなったり、皮膚がこすれると赤くなったりする(ケブネル現象)を伴うこともあります。咳や軽い動作での息切れがある場合は肺病変を合併している可能性があり、急速に病気が悪くなることもあるため、注意が必要です。

その他、全身倦怠感・関節痛・発熱がみられることもあります。悪性腫瘍を合併することもあります。



皮膚筋炎の皮膚症状
Chu, L. L. and G. Rohekar (2019). "Dermatomyositis." Canadian Medical Association Journal 191(12): E340-E340. より引用



筋炎で見られる特徴的な
爪上皮出血点

Rider, L. G. and J. C. Atkinson (2009). "Gingival and Periungual Vasculopathy of Juvenile Dermatomyositis." New England Journal of Medicine 360(15): e21. より引用



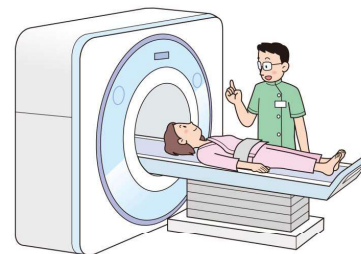
皮膚筋炎の皮膚症状

Garcia-Cruz, A. and I. Garcia-Doval (2010). "Gottron's Papules and Dermatomyositis." New England Journal of Medicine 363(12): e17. より引用

検査では筋症状がある場合、筋肉の酵素であるクレアチンキナーゼ(CK)やアルドラーゼ(ALD)が上昇します。病型によっては特徴的な自己抗体が検出されることがあり、診断や治療方針の決定に有用となります。その他、筋症状の評価として徒手筋力テスト・筋電図検査・筋肉のMRIなど、肺病変の評価としてCT検査・呼吸機能検査・6分間歩行テストを実施し、活動性を総合的に評価します。

診断

筋症状、特徴的な皮膚症状を主として自己抗体や画像検査などを行い診断します。皮疹を皮膚科で生検し診断の手助けにすることも多いです。筋症状のみの場合は神経疾患との区別が難しいことがあり、筋肉の組織を取る(筋生検)で確定診断となる場合もあります。皮膚筋炎・多発性筋炎は国の定めた指定難病のため重症度に照らした上で医療助成の対象となることがあります。



治療

第一選択はステロイド治療です。肺病変が急速に進行すると考えられる場合は早期から強力な免疫抑制薬を併用します。ステロイド治療中にはステロイドの副作用に注意する必要があり、特に感染症やステロイド性骨粗鬆症やステロイド性糖尿病など様々なステロイド副作用を予防・治療する必要があります。

悪性腫瘍が合併している場合は悪性腫瘍の治療を同時または筋炎の治療に先行して行うこともあります。またステロイド治療単独では治療が十分ではない場合にはその他の免疫抑制剤を併用することもあります。



生活上の注意点

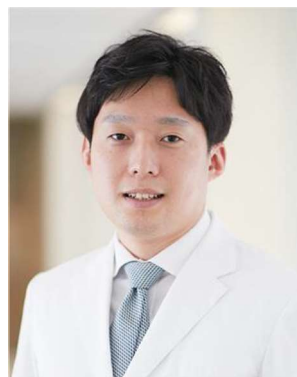
免疫抑制治療のため、感染症に注意する必要があります。手洗いうがいなどの基本的な感染対策を行う必要があります。ステロイド内服量が多い場合は特に生活習慣病のコントロールが悪くなることがあるため、規則正しい生活や食事をこころがけて下さい。

自己抗体の種類によっても頻度はまちまちですが、悪性腫瘍の合併率が他の疾患に比べて高いと報告されており、定期的ながん検診を行う必要があります。筋炎が落ち着けば早期からリハビリテーションを積極的に行い、筋肉をつけることが重要になります。まずは日常生活動作の訓練を行っていくと良いでしょう。



ごあいさつ

膠原病・リウマチ内科 医師 吉田 直史（よしだ なおふみ）



2022年4月から関西医科大学から1年間大阪公立大学膠原病リウマチ内科で診療させていただくこととなりました。膠原病は関節を初めとして皮膚、肺、腎臓、血管など様々な臓器に症状が出現する疾患です。まずは患者様の声を聞き身体所見や検査を通じて鑑別を行い早期診断・早期治療につなげていきたいと考えています。また、診断後は様々な治療選択肢の中で1人1人に合った最適解を一緒に探していきたいと考えています。



大阪公立大学医学部附属病院

膠原病・リウマチ内科外来

TEL ☎ : 06-(6645)-3301

初診受付時間： 9:00~10:00 診察時間： 9:00~15:30

外来担当表

月	火	水	木	金
渡部 龍	山田 真介	橋本 求	渡部 龍	橋本 求
山田 真介		権 好穂		
権 好穂				

